

令和5年度後期授業評価・授業改善アンケート結果

【生徒の評価】

回答:46名/46名

評価	質問項目	1学年	2学年	3学年	全学年	昨年度 全学年
授業について	新しい単元に入る際に、単元計画の提示・説明は行われているか。	3.75	3.69	3.74	3.73	3.75
	「本時の目標」を設定され、目視できるように提示しているか。	3.74	3.71	3.61	3.69	3.70
	授業の内容に興味・関心がわくように、授業が行われているか。	3.81	3.60	3.79	3.73	3.72
	ICT活用を行い、効率的かつ効果的な授業展開が行われているか。	3.55	3.40	3.54	3.50	3.55
	『主体的・対話的で深い学び』に着目した授業展開が行われているか。	3.83	3.68	3.74	3.75	3.69
	「本時の振り返り」は行っているか。	3.56	3.44	3.41	3.47	3.49
	授業の内容は理解できているか。	3.67	3.58	3.84	3.70	3.68
	自分の成績について適性に評価されていると思うか。	3.86	3.90	3.90	3.89	3.76

評価	質問項目	1学年	2学年	3学年	全学年	昨年度 全学年
自己評価	準備して授業に臨んでいるか。(時間厳守、忘れ物をしないなど)	3.53	3.44	3.62	3.53	3.65
	授業に集中して取り組んでいる。(私語、居眠り、スマホをさわる、タブレットで授業と関係のないことをしていないかなど)	3.60	3.33	3.54	3.49	3.68
	授業でわからないところがあったら、先生や友達に聞いたり調べたりして、理解しようと努力している。	3.80	3.83	3.77	3.80	3.72

【分析】

学校として推進している“授業改善実践項目”にある通りに、単元計画の作成・提示や毎時間の目標設定などを行い授業を展開をしていることが分かる。単元計画の発行や目標の設定など、生徒は見通しが持てるような体制づくりがされていると感じている様子が見て取れるが、自己評価として授業準備や集中して取り組む等の項目において不十分だと感じる生徒が多くいた。しかし理解しようと努力するという項目においては、高い数値を示しており、生徒は学ぶことに前向きに取り組んでいる様子がうかがえた。

また、教員の自己評価においては総じて生徒の評価よりも低い値を示しており、授業改善の意識が教員にあることがわかる。そして、今回特に「教科横断的授業」や「探究的授業」についての質問を設定したことで、改善の余地があると感じている教員が多いことがわかった。実際に「教科横断的授業」を実践している教科もあるが、学校としての授業実践しやすい環境作りや情報交換・校内研修を行う必要がある。

【教員の評価】

回答:11名/11名

評価	質問項目	平均値	昨年度 平均値
教員自己評価	新しい単元に入る際に、単元計画の提示・説明を行っているか。	3.20	3.09
	生徒の資質能力の育成に観点をおいた「本時の目標」を設定し、生徒が目視できるように提示しているか。	3.20	3.09
	授業の内容に興味・関心がわくように、授業が行われているか。	2.90	2.91
	ICT活用を行い、効率的かつ効果的な授業展開が行うことができるか。	3.00	3.09
	生徒の『主体的・対話的で深い学び』に着目した授業展開が行われているか。	2.70	3.00
	授業の内容が理解できているかなど、「本時の振り返り」は行っているか。	2.90	2.73
	(後期)成績については根拠となる資料をすぐに提示できる準備をしているか。	3.50	3.00
	『教科横断的視点』や『探究的視点』に着目した授業展開を行えているか。	2.30	3.36
	自身の教科について、外部の研修会に参加するなど授業方法についての情報収集を行なっているか。	3.30	2.73